

丹波市教育委員会広報

教育たんば



令和2年度

12月号



もくじ

■表紙 西小学校運動会「4・5・6年生表現～伏竜鳳雛～」

ポスト・コロナの学校～「教える場」から「学ぶ場」へ～（教育長コラム）…… 1

コロナ禍で学ぶ子どもたちに必要なこと（教育委員コラム） /

学校給食費納付のお願い…………… 2

GIGA スクール構想の取組が始まります！ …… 3・4

氷上回廊水分れフィールドミュージアムオープン…………… 5

李 行簡展 / 山南地域統合中学校の制服が決定しました…………… 6

めざせ！キッズ・ライブラリアン / 運動会・体育大会…………… 7

ポスト・コロナの学校

「教える場」から「学び場」へ



教育長 岸田 隆博

今、国は「GGAスクール (Global and Innovation Gateway for All) 構想」というプロジェクトを推進しています。当初は、令和5年度までのプロジェクトでしたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、今年度中の整備をめざしています。この構想は、児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちに最適化された創造性をはぐくむ教育の実現をめざす構想です。丹波市も現在整備を進めており、今年度中に整備を完了する予定です。

東北大学大学院の堀田龍也教授は、ある雑誌のインタビューで「GGAスクール構想の本来のかつ本質的な意義は、子どもたちにこれからの時代を生きる力を身に付けてもらうため、ICTリテラシー（情報化社会に対応する能力）を高める教育を実践するため」と言われています。では、なぜICTリテラシーを高めることが、子どもたちの生きる力を育てることにつながるのでしょうか。堀田教授は、「めまぐるしい時代の変化とともに、情報を活用しなければ、学ぶことも仕事もできなくなる世の中になっているからだ」と説明されています。

これまでは、学校で学んだことをきちんと覚え

ていれば、「教育→仕事→引退」という一方通行の「3ステージ」の生き方で問題はありませんでした。しかし、人生100年時代と言われる今、寿命が延びれば、「二番目の「仕事」のステージが長くなります。引退年齢が70〜80歳になり、長い期間働くようになると、「3ステージ」の生き方は通用しなくなり、常に新たなスキルを習得しながら複数のキャリアを渡り歩く「マルチステージ」の生き方に移行しなければならないと言われていきます。その一方で、インターネットの発達やAI（人工知能）の台頭など環境変化は著しく、一つの分野で一生稼げる時代は終わりつつあります。そのため、これからは、社会人に異分野の知識や能力を磨くリカレント教育の必要性が高まっています。実際、大人の学び場が続々誕生し、社会人の学び直しが広がっています。このようなリカレント教育のためには、これからは、幼少期から大学時代までに「学び続けられる力」がどれだけ鍛えられたかを問われることになります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴い、約3ヶ月間の臨時休業を余儀なくされました。その間、丹波市の各学校では、学校の下駄箱をポスト代わりに使用して課題を児童に渡したり、各家のポストに投函したり、Zoomを活用したりして、子どもたちの学びを止めない様々な取組を行いました。しかし、子どもが学校ではなく、家庭にいることによって「一斉に教える」「一斉に話を聞かせる」ことはできなくなりました。つまり、学ばかどうかは学習者に委ねられ、学びの主導権は子どもの側にあるという当たり前のことが突きつけられました。学びの主導権が子どもにある以上、学びは、学びの当事者である子どもが「学びたい」

と初めて駆動することになります。常にな教師の指示を待つ学びが中心だった子どもたちには、「学びたい」というスイッチは入らないでしょう。でも、このままでは「学び続けられる力」は身に付きません。1人1台の端末が整備されても、「はい、電源ボタンを押しましょう」「できた人は待っていてください」「勝手に先には進みません」と一斉指導にこだわりの、子どもを自由にさせることができない従来型の指導では、端末は子どもたちのツールにはなりませんし、「学びたい」という気持ちにはなりません。「学びたい」というスイッチをオンにするには、何を・どう・どこまで学ばかを一人ひとりの子ども自身が自分で決められるようにならなければなりません。そのためには、教師は、「教える」から「支える」「共に学ぶ」に、児童生徒は、「教わる」から「学ぶ」「互いに教える」に転換し、学校は、「教える場」から「学び場」へと変わるべきだと考えています。もちろん、最初から上手くいくとは考えていません。ただ、成功と失敗の2種類ではありません。大切なのは、なぜ上手くいかなかったのかを考えることです。そして、前例踏襲にとらわれず、お互いの豊かな発想をいかすことができれば、きっと変えることができると思っています。

私は、失敗を恐れる人は、失敗によるマイナス評価を恐れているのではないかと思います。失敗をしない必勝法は、①何もしない②できることだけ③誰かの言う通りする。この3つを守れば、失敗はしません。しかし、失敗しない必勝法を続けると ①何もできなくなる②成長できなくなる③考える力を失うことになります。「失敗はだめなことだ」「責任をどうするんだ」という職場では、



失敗を避ける人が増えると思います。私が、学校に期待するのは、①何かする②できないことをする③自分で考えてすることです。何かすれば、できることが増えます。できないことをすれば成長します。自分で考えてすれば、考える力が増えます。しかし、学校が失敗しない努力をすると、そこで働く先生も、子どもも失敗を恐れる病に感染するのではないかと思います。逆に、学校が失敗を恐れない努力をすると、そこで働く先生も、子どもも失敗を恐れなくなります。大切なのは、管理職と先生方とお互いに納得いくまで話し合い、強固な信頼関係を結んでいくというプロセスです。そして、教職員一人ひとりが、「熱い気持ち」や「やりがい」を持って、お互いのモチベーションを上げながら、頑張れる、働き甲斐のある職場にしてほしいと願っています。そんな学校が1校でも増えるように、私は全力で学校を支えていく覚悟です。

枠にはめる教育から脱却し、子どもたち一人ひとりが認められる学校。先生を主語にするのではなく、子どもを主語に、一人ひとりの子どもが、子ども同士で学び合うことができる学校を創ってほしいと考えています。そのために、教育委員会も全力で学校を支援してまいりますので、保護者の皆さん、地域の皆さんも学校の応援団として、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。



コロナ禍で学ぶ子どもたちに必要なこと

教育委員 安田 真理

今年は新型コロナウイルス感染症対策に伴い小中学校が臨時休業となり、オンライン学習と対面授業の重要性を考えるきっかけとなりました。家庭学習においては、自分で考えて行動するかどうか学習に大きな影響を与えました。

自主性のある子どもたちは、物事を選択し選んだ理由を考え、その結果を分析します。自主性のある子どもたちに育てるためには、良かったことは具体的に褒め、失敗したことは改善策を考えたり、試行錯誤を積み重ねたりして、子ども自身が「できる」を実感することだと思います。

コロナ禍の中、オンライン学習やICT活用は継続されていくでしょう。ICTを活用することで学習や校務の効率化、個人のレベルに合わせた学習が可能になる反面、社会の情報化が加速し、子どもたちは様々なリスクにさらされていきます。子どもたちがリスクを正しく理解し、かつ、自主的にトラブルを回避していくような知識やモラル教育が求められていると思います。

学校給食費納付のお願い

学校給食は、成長期にある児童生徒の健康な身体をはぐくむとともに、児童生徒が、食の大切さや感謝等を学ぶうえでも大きな役割を果たしています。学校給食で使われる食材は、保護者の皆さまに納付いただいた給食費によって賄われています。給食費を滞納されると、納付いただいている方との公平性が保たれないだけでなく、給食の献立内容にも影響する場合があります。

学校給食費は、月額（1食単価×提供食数）を翌月に口座振替により納付いただいています。口座振替の前には残高を確認し、確実な給食費の納付をお願いします。

区 分	学校給食費 1食単価	振 替 日
小学校児童	245円	振 替 日：翌 月27日 再振替日：翌々月15日 (休日の場合は、翌営業日)
中学校生徒	275円	



図 学事課 学校給食係
TEL 70-0880

(給食費の納付が困難な場合はご相談ください。)

GIGAスクール構想とは？

GIGAスクール構想とは、子どもたちの1人1台タブレット端末と高速で大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちに最適化された創造性をはぐくむ教育の実現をめざす構想です。当初は、令和5年度末までの5年間の計画でしたが、新型コロナウイルスの影響で、令和2年度中の整備完了に繰り上げられました。

これからの新たな教育活動

タブレット端末導入後の教育活動は、これまでの教師主導の教育から児童生徒が主体となり、自分から協働的に学びを深めていく活動に変わっていきます。

また、個々の能力やニーズに応じた個別最適化された学習活動を展開していきます。



これまでの教育活動

教師主導の教育活動（学校内中心）

- ・ 教師と児童生徒の対面型
- ・ テキスト、プリント中心
- ・ 教師によるICT活用

自学自習による教育活動（家庭中心）

- ・ 課題プリントによる学習
- ・ 復習中心に予習も含めた学習
- ・ 実態に応じたオンライン学習
→ 動画教材、ドリル教材、
双方向学習



これからめざす新たな教育活動

一人ひとりの理解状況や能力に合わせた学び

- 学校**
 - ・ 学び合いを中心にした「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・ ICTを利活用した創造的で協働的な学習
 - ・ 効率的な家庭学習の推進、支援
 - ・ 長期休業や臨時休業中の継続的な学習支援
- 家庭**
 - ・ 個のニーズに応じて個別最適化された学習
 - ・ 様々な情報を活用した課題解決学習
 - ・ 個々の実態に沿った自律的な学びの促進

学校と家庭をつないだ次世代の
学習環境の実現による、生きる力の育成

Q3 どんなタブレット端末を使うの？

A3

キーボード脱着式のタブレット端末「Lenovo IdeaPad D330」を導入します。小学生のランドセルにも収納できるサイズです。



Q4 セキュリティ対策はどうなるの？

A4

自宅にネット環境があれば、インターネットに接続することが可能となりますので、不適切なウェブサイト等への接続を制限するフィルタリングの設定を行います。

GIGAスクール構想の 取組が始まります!



丹波市の目標

丹波市では、未来を生きる子どもたちへの教育として、次の3点を目標に掲げて取り組みます。



1

ICTを使う授業と使わない授業を適切に組み合わせた「ハイブリッドラーニング」を推進します。

学校や家庭において、タブレット端末とこれまでの教材（紙媒体）を適切かつ効果的に組み合わせることで、主体的・対話的で深い学びに向かう授業の充実をめざします。



2

ICT活用を教師の「授業支援」から児童生徒の「学習活動支援」に変革します。

これまでの教師主導のICT活用から、児童生徒自らが主体的にICT活用する学びへと変革します。



3

「情報活用能力」を高め、ICTを学校だけでなく日常生活でも活用できるようにします。

授業中はもちろん、普段の学校生活や家庭生活においてもICTを主体的に活用できる体制を構築し、情報活用能力を育成します。



GIGAスクールQ&A



Q1

どんな能力を育てるの？

A1

これまでの教育実践にICT活用を組み合わせ、「言語能力」や「問題発見解決能力」と同時に「情報活用能力」を身に付けます。そのために、授業だけでなく日常生活や家庭でもICTを積極的に活用していきます。

Q2

タブレット端末は、どのように活用するの？

A2

主に授業中に活用しますが、今後家庭に持ち帰り、家庭学習でも活用できるようルールや環境も整備します。タブレット端末では、グループで共有したり、共同で編集したりできます。離れた場所からでも学習に参加したり、交流したりできます。連絡やアンケートを受け取り、オンラインでの回答や提出もできます。

3.20[土・祝] リニューアルオープン



氷上回廊
水分れフィールドミュージアム
Hikamikauro Watershed FIELD MUSEUM

水分れ資料館は、「氷上回廊」、「水分れ」の地形や歴史、自然をテーマにした資料館として昭和63年に設立されました。しかし、時代の変化とともに建物や設備の老朽化、展示品の形骸化が進み、来館者の皆様に十分な学習機会や新たな知見を提供することが難しくなりました。

そこで、展示物の一新とともに、丹波市全域をフィールドとして活用することをめざし、水分れ資料館をリニューアルし、令和3年3月20日（土・祝）に「丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム」として新たにオープンすることが決定しました！

地域とともに創る、地域に開かれた博物館

【企画展・ワークショップ】丹波の農業や環境、生物多様性や昆虫、伝統産業や工業を紹介し、丹波の魅力が学べる企画を計画しています。また、ワークショップでは自然観察会や歴史講座、写真の撮り方講座、イラスト講座など多岐にわたる分野を学べる多彩な講座を計画中です。

企画のご提案、ご意見やアイデアもお待ちしています。

小さいけれど 学びがいっぱいの 博物館

来館者の皆様に充実した時間を過ごしていただくため、リニューアルオープンに向けて、展示内容の充実や、魅力的な博物館になるように準備しています。

リニューアルオープン後、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

☎ 文化財課 TEL 70-0819

丹波市立 氷上回廊
水分れフィールドミュージアム

2021年 3月 20日(土・祝)
リニューアルオープン

氷上回廊
水分れフィールドミュージアム
〒690-3404 兵庫県丹波市氷上町石堂1196
連絡先 丹波市教育委員会 文化財課 tel 0795-70-0819 fax 0795-70-0814

李行簡展

〈会期〉令和3年1月16日(土)～3月14日(日)

中国湖北省に生まれた李行簡(1937～)は、中央美術学院卒業後、同学院で教鞭を執りながら李可染(1907～1989)に師事し、その高弟の一人として活躍する水墨画家です。中でも少数民族の住む山深い景色を題材とした作品で高い評価を受け、失われつつある景色をダイナミックに描いています。1980～1990年代には、日本でも個展を開いています。

本展覧会では、創設者・植野藤次郎が1980年代に収集した当館収蔵作品と併せて、李行簡が1990年代に滞在していた姫路市において、2000年に開館した「李行簡美術館」が所蔵する作品を紹介します。軸装・額装作品と共に、襖四面に渡る大型の作品や、焼き物に絵付けをした作品など様々な形態の作品をご覧ください。



李 行簡《春雨黃陵廟圖》1999年

会場：植野記念美術館 展示室3・4階

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日

観覧料：一般500円、大学・高校生300円
小・中学生150円

※ココロカード利用可、小学生未満無料、20名以上団体割引

☎ 植野記念美術館 TEL 82-5945

※ご来館の際には、マスクの着用や手指の消毒など新型コロナウイルス対策へのご協力をお願いいたします。

山南地域統合中学校の制服が決定しました！

令和5年度に開校予定の山南地域統合中学校の新しい制服が決まりました。山南地域全域を校区として誕生する新たな中学校として、「心機一転」「全校一心」がコンセプトになっています。なお、新中学校の制服については、令和3年度に入学する中学1年生から変更し、令和5年度には、全員が新しい制服で開校を迎えます。

令和5年度開校 丹波市立山南中学校 制服



デザイン詳細

オリジナルデザイン

2つの星は学校を表し、生徒一人ひとりが輝くように願いを込めました。2本のラインは「篠山川」と「加古川」を表現しました。学校名と創立年度を刻んだオリジナルデザインです。

スカート / スラックス

スカートは濃紺をベースに、市の花「カタクリ」の紫をラインに取り入れた上品なチェック柄。誠実な印象を発信する白のラインが入ったデザインです。スラックスは落ち着いた印象のチェック柄。スカートとの統一感を高める紫のラインがポイントです。



エンブレム



☎ 教育総務課 TEL 70-0810



めざせ！キッズ・ライブラリアン☆

キッズ・ライブラリアンとは…図書館をよく知り、情報の探し方や伝え方を学んだ子どもたちです

～丹波市立図書館からのお知らせ～

丹波市子ども司書養成講座

～もっと知りたい☆図書館のヒミツ～

9月27日の開講式には、4年生から6年生までの9名の子どもたちが一同に会し、今年度も子ども司書養成講座がスタートしました。9名そろって、丹波市のキッズ・ライブラリアンをめざしていきます。

1月24日の講座最終回のおはなし会は、一般のお客様も参加可能です。ぜひ、新米子ども司書の勇姿にエールを送っていただけたら嬉しいです。



本の装備作業の様子

子ども司書認定者、活躍中!!

新型コロナウイルスの影響で、しばらく開催できなかったおはなし会を、9月から再開しました。

読み聞かせボランティアの皆さんと歴代子ども司書のコラボ企画『読み聞かせに参加してみませんか?』には、たくさん子ども司書認定者に応募いただきました。

初めて出会う、参加者の前でも、落ち着いて、講座で学んだことをしっかり発揮できました。



運動会・体育大会

新型コロナウイルス感染症防止対策のため規模を縮小して運動会・体育大会を実施しましたが、子どもたちは環境の変化に向き合い、精一杯頑張りました。練習の成果を発揮し、笑顔あふれる時間となりました。



ID検索: @477vtcut

丹波市教育委員会公式LINE
友だち登録お願いします!

